協賛企業賞

水とのふれあいを考える

御成門小学校　六年　常泉綾香

水道の蛇口をひねるときに、みなさんは、水の旅について考えたことがありますか？昔と今の「日本人と水とのつき合い」について考えたことがありますか？

私が手にした『川は生きている』という本は、昔と今の川の比較や、現在川を守っている人々の話がたくさん書かれています。その中でも水を守る必要性について、いくつかの大事なことがとりあげられています。

今、多くの水が使える理由は、今までの水に対する深い歴史があるからです。昔は、あばれ川の近くでは、治水をしたり、水と自然の関係を理解している上で、川との共存を作り上げました。

しかし、現在は、堤防やダムなどで川を閉じこめたり、汚れた水を川に捨てたりして、水をきずつけたりしています。わたしは、昔の付き合い方は、「水とうまく付き合っていてすごいなあ。」と、びっくりしました。でも、今の付き合い方は、「人間の行動で水がいためつけられていることにかわいそうだな」と強く思いました。

でも、考えてみると、水をきずつけているのは人間です。わたしたちが守っていかないと、川や海の魚たちはもちろん、人間たちも生活できなくなってしまいます。このまま水をいため続けていくと、人間の生活もできなくなってしまうということに、とてもおどろきました。

みんなの大切な水・・。では、どのようにして水を守っていけばいいのでしょうか？それは、自然とつき合うために、人間の都合をおし通さないことです。人間の都合通りに自然をこわしてしまうと、なかなか元に戻すことができません。しかし、人間が植林などに真剣に取り組めば、自然は応えてくれるのです。

ふと川を見つめていると、わたしは今、なつかしい記憶が思い出されます。山形県にある三大急流のひとつ、最上川です。わたしの祖母のふるさとは、とても自然が豊かな所です。わたしは祖母から、「こどものころは、プールではなく、最上川でパンツ一枚で泳いだんだよ。」と聞きました。わたしも、五才のころに、実際に最上川に行って川の水をさわってみました。とても冷たくて、きれいでした。『今も昔と変わらないきれいな最上川。』「山形の人たちは、日に日に努力を重ねて川の水を守っているんだな。」と強く感じました。

わたしは、この本を通して、「生きていく上での水の大切さ」を、改めて強く感じました。これからも、水・緑・土などをはじめとする、さまざまな自然を、わたしも、みんなと協力して守っていきたいです。